



2019年度 上期決算説明会

2019.11.12

明治ホールディングス株式会社

1. 2019年度 上期総括
2. 2019年度 下期・通期見通し
3. セグメント別概況と今後の経営方針

- 本資料は投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。銘柄の選択、投資の最終決定はご自身でご判断をお願いいたします。
- 本資料に記載された業績見通しなどの将来に関する記述は、当社が現在入手している情報、および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績などはさまざまな要因により大きく異なる可能性があります。
- 本資料には、薬品（開発中の製品を含む）に関する情報が含まれておりますが、その内容は宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。

1. 2019年度 上期総括

2019年度 上期連結決算のハイライト

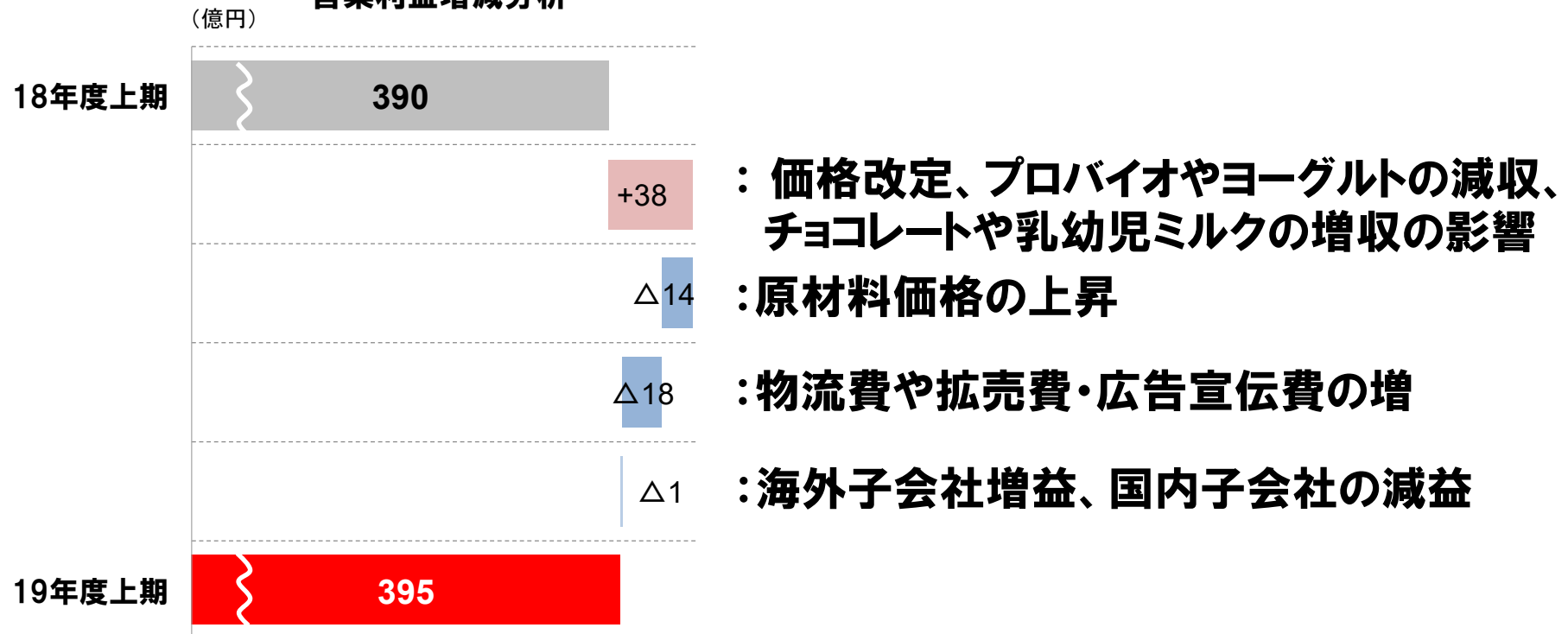


(億円)	18年度 上期実績	19年度 上期計画	19年度 上期実績	前年同期比	計画比
売上高	6,119	6,250	6,180	+1.0% +61	△1.1% △69
営業利益	438	440	475	+8.5% +37	+8.1% +35
営業利益率	7.2%	7.0%	7.7%	+0.5pt	+0.7pt
親会社株主に帰属する 四半期純利益	383	285	318	△16.8% △64	+11.8% +33
EPS	264.23円	196.51円	219.68円	△44.55	+23.17
1株当たり配当金	65.0円	70.0円	70.0円	+5.0	—
設備投資額	343	470	387	+13.0% +44	△17.6% △82

- 売上高は計画は未達ながらKMバイオロジクスの連結効果(1Q)とインフルエンザワクチン販売により前年超過、営業利益は計画、前年ともに上回る
- 純利益は計画を上回るものの、前年計上した負ののれん発生益と土地売却益の反動により大幅に減少

(億円)	18年度 上期実績	19年度 上期計画	19年度 上期実績	19年度 上期実績	
				前年同期比	計画比
売上高	5,248	5,340	5,232	△0.3% △16	△2.0% △107
営業利益	390	390	395	+1.4% +5	+1.4% +5

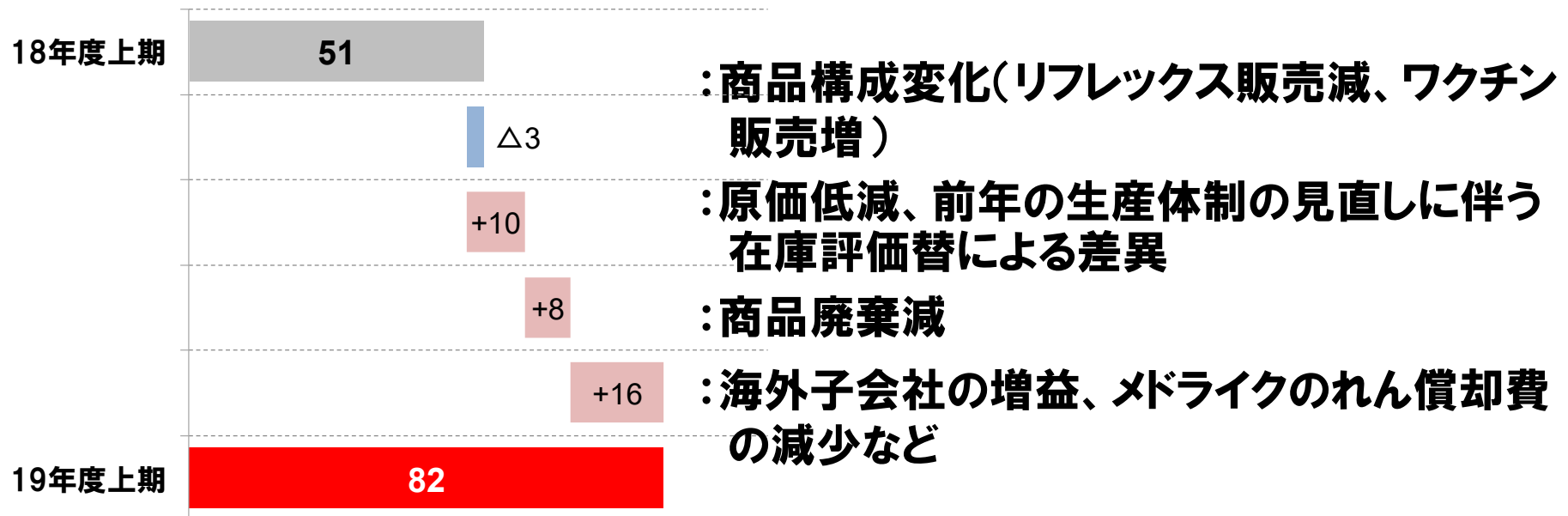
営業利益増減分析



(億円)	18年度 上期実績	19年度 上期計画	19年度 上期実績	19年度 上期実績	
				前年同期比	計画比
売上高	876	921	953	+8.9% +77	+3.6% +32
営業利益	51	51	82	+60.8% +31	+61.3% +31

営業利益増減分析

(億円)



2. 2019年度 下期・通期見通し

2019年度 通期連結見通し



(億円)	18年度 通期実績	19年度 通期計画	前年同期比
売上高	12,543	13,090	+4.4% +546
営業利益	983	1,080	+9.8% +96
営業利益率	7.8%	8.3%	+0.4pt
親会社株主に帰属する 当期純利益	618	675	+9.1% +56
EPS	426.61円	465.37円	+38.76円
1株当たり配当金	140円	140円	—
配当性向	32.8%	30.1%	Δ2.7pt
ROE	12.2%	12.3%	+0.1pt
設備投資額	712	991	+39.2% +279
営業CF	1,121	1,079	Δ42
フリーCF	118	84	Δ34

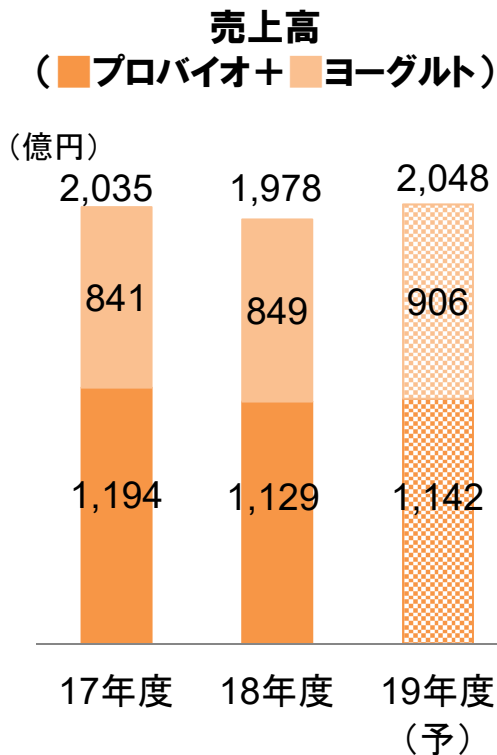
2019年度 下期連結見通し



(億円)		18年度 下期実績	19年度 下期計画 (5/13時点)	19年度 下期計画 (11/8修正)	前年同期比
連結	売上高	6,424	6,840	6,909	+7.6% +485
	営業利益	545	640	604	+10.8% +58
	営業利益率	8.5%	9.4%	8.7%	+0.2pt
	親会社株主に帰属する 四半期純利益	235	390	356	+51.3% +120
食品	売上高	5,318	5,560	5,667	+6.6% +349
	営業利益	457	509	504	+10.3% +46
医薬品	売上高	1,110	1,284	1,251	+12.6% +140
	営業利益	91	134	102	+12.5% +11

- 上期の業績を踏まえ、売上高・利益とも修正
- 食品、医薬品ともに、当初の通期計画の達成を目指す

3. セグメント別概況と今後の経営方針



プロバイオ

● コミュニケーション施策の強化と店頭での売り場づくり徹底により前年実績を維持

- R-1 最需要期の冬場に向けTVCMを投入、売り場を最大化
- LG21 WEB広告と店頭販促の強化
- PA-3 機能性表示「尿酸値の上昇を抑える」を継続訴求

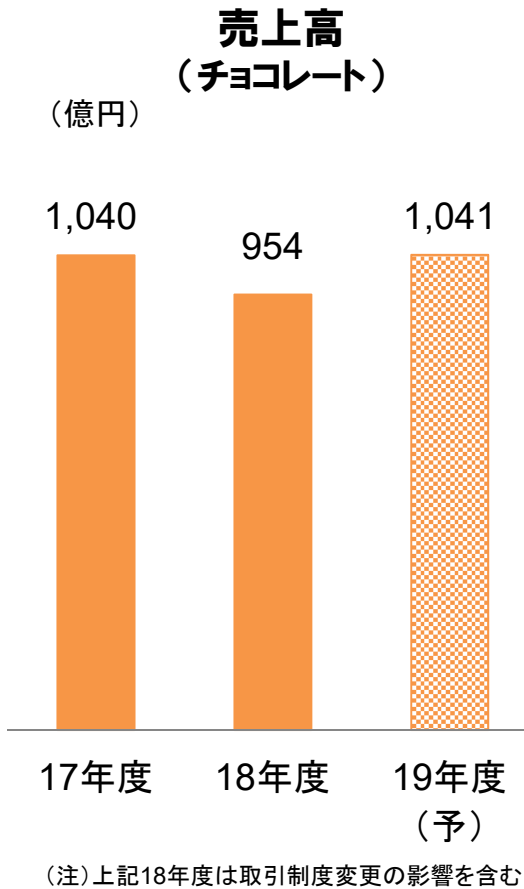
ヨーグルト

● ブルガリアヨーグルトのラインアップ強化により売上拡大を目指す

- ハード 「甘みつき」の400gと個食タイプ2個パック
- ドリンク ハンディタイム新発売と大容量のSKU増



2019年9～10月発売



- **健康志向チョコレートの更なる売上拡大**
 - 「チョコレート効果」の健康価値を継続訴求、ユーザー層を更に拡大
 - 好調な「オリゴスマート」はアイスクリームも展開しブランド認知を拡大



2019年2月発売

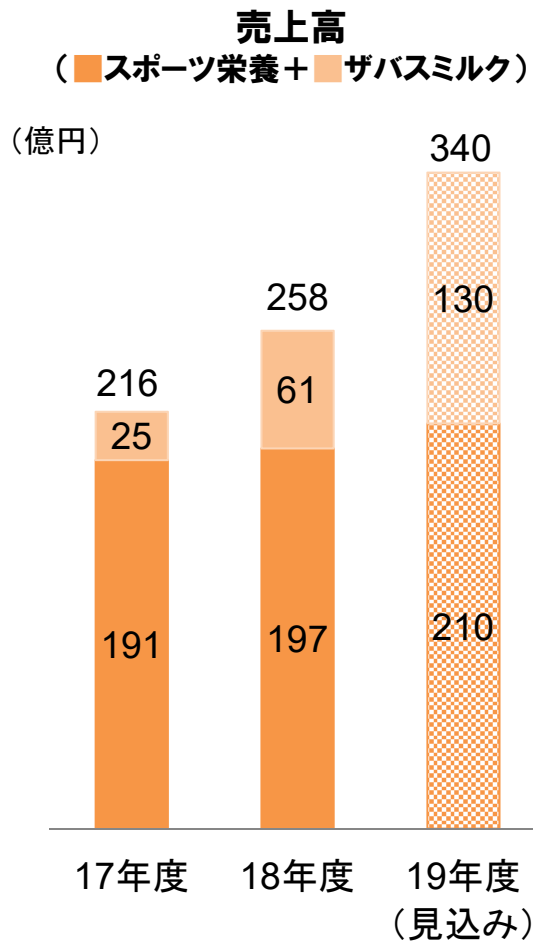


2019年9月発売

- **大人の嗜好品としてのチョコレート文化を醸成**
 - 「ザ・チョコレート」のラインアップを整理(9→4SKU)、新たにアソートタイプを発売



2019年9月発売



(注)「ザバスミルク」は発酵デリーの売上に含まれる

- ザバスの粉末は、新フレーバーの「抹茶」と「ヨーグルト」が好調に推移。下期は新工場の稼働により品質を向上、来春より新規格品の展開をスタート
- ザバスミルクはラインアップ強化により大幅な伸長、女性向けの新製品「スタイルボディ」を下期は展開、ユーザー層の拡大を図る
- ターゲティング広告やWEBプロモーションなどデジタルマーケティングを強化、ザバスブランドの認知拡大を図り成長を加速



2019年2月発売

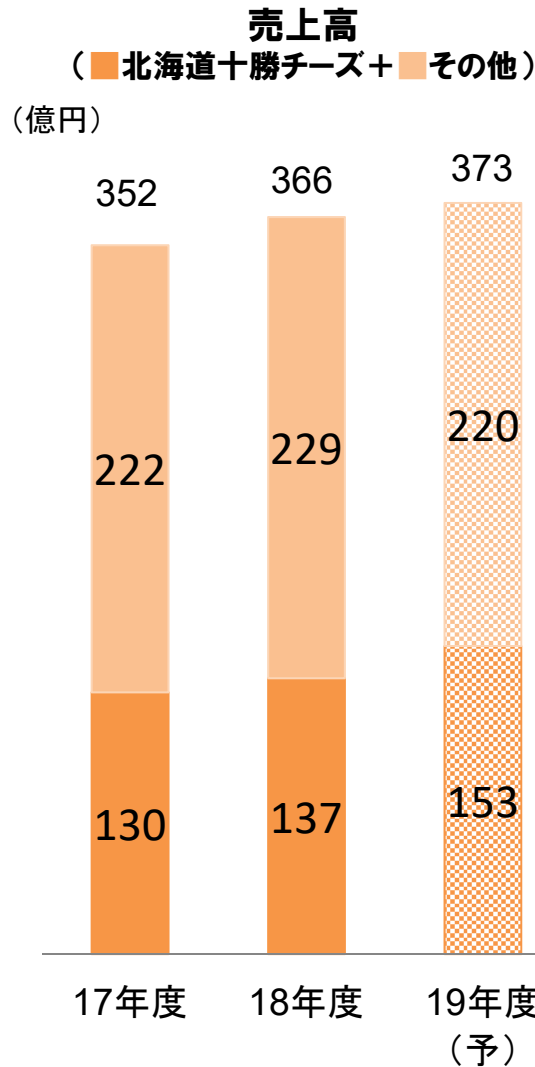


2019年4月発売



2019年10月発売





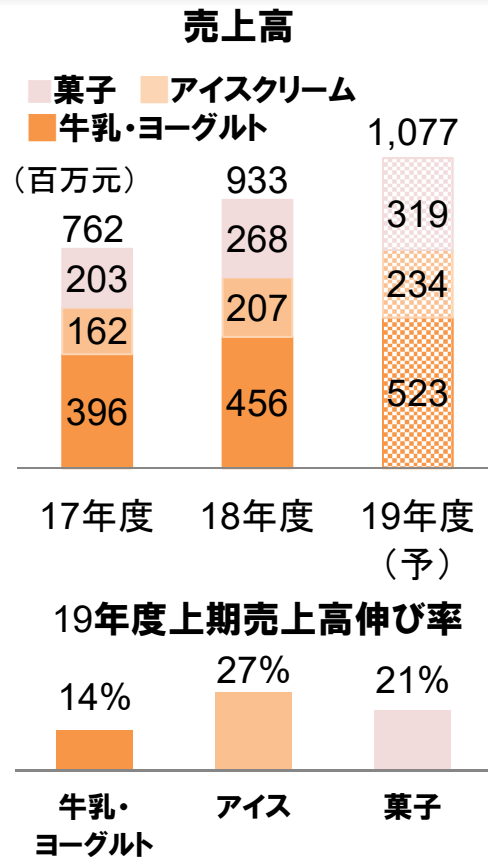
- 北海道十勝スマートチーズはラインアップ強化により大幅に伸長
- 北海道十勝カマンベールチーズは順調に推移、10月に新製品「燻製タイプ」を発売し、最需要期での更なる売上拡大を図る



2019年3月発売



2019年10月発売



明治乳業(天津)有限公司設立

- 牛乳・ヨーグルトの生産と販売
- 資本金約95億円
- 2022年度下期生産開始予定

● 牛乳・ヨーグルト

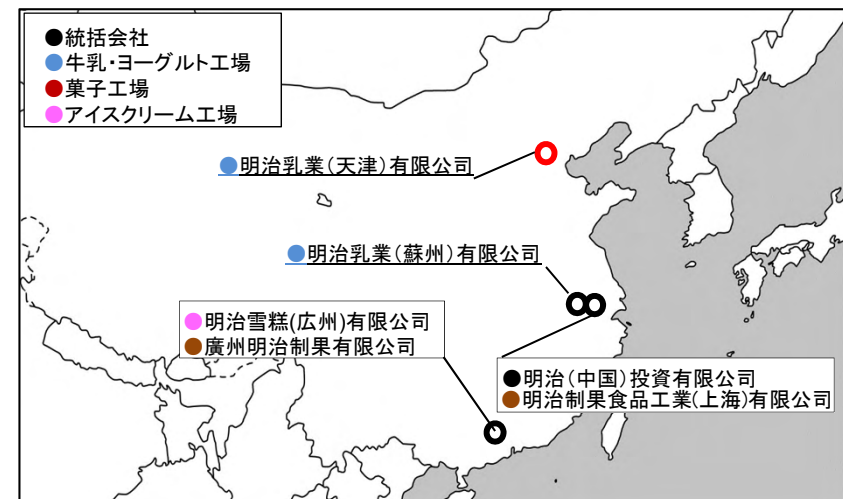
- チルド牛乳は、市販・業務用ともに好調を維持
- ヨーグルトは新製品の食物繊維入りヨーグルトやドリンクヨーグルトが計画を上回って推移

● アイスクリーム

- 外省エリア開拓やECチャネルへの販売を強化

● 菓子

- 主力の「メルティーキッツ」やナッツチョコを中心に引き続き成長を目指す



1. 付加価値商品の展開

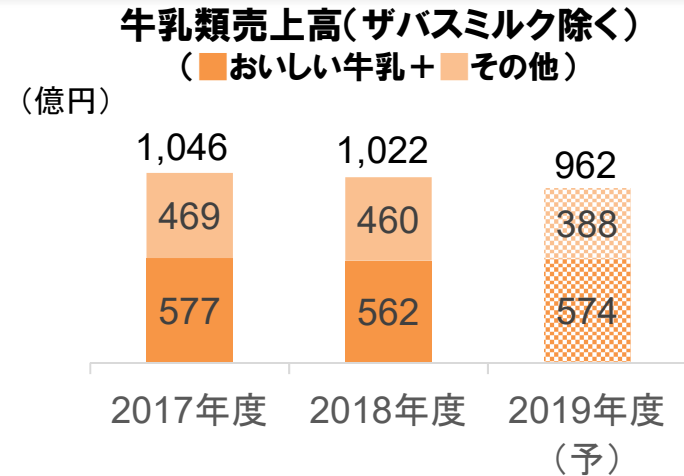
- ・ 世界初製法の乳原料を使用した
- ・ 「明治おいしい低脂肪乳」
- ・ 「明治おいしいミルクカルシウム」を発売

2. 商品の選択と集中

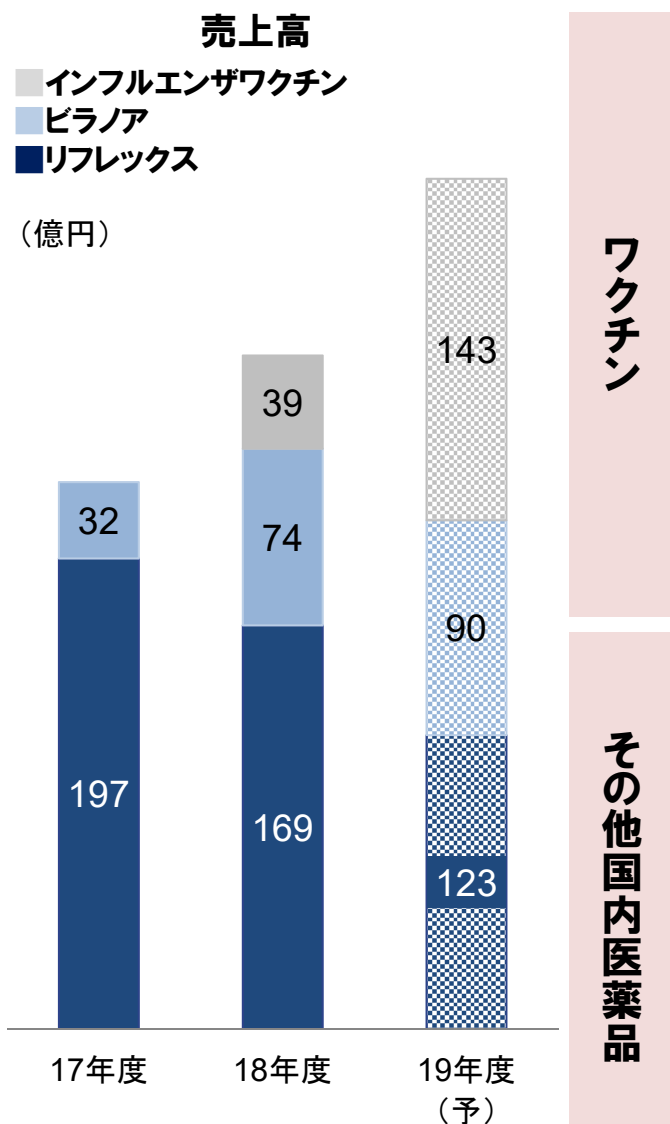
- ・ 小・中容量を含めて「おいしい牛乳」ブランドを徹底的に展開
- ・ 「明治牛乳」「明治ラブ」「学校用牛乳」は順次縮小

3. 生産体制の最適化

- ・ 北陸工場閉場(2019年9月)
- ・ ゲーブルラインの撤去など



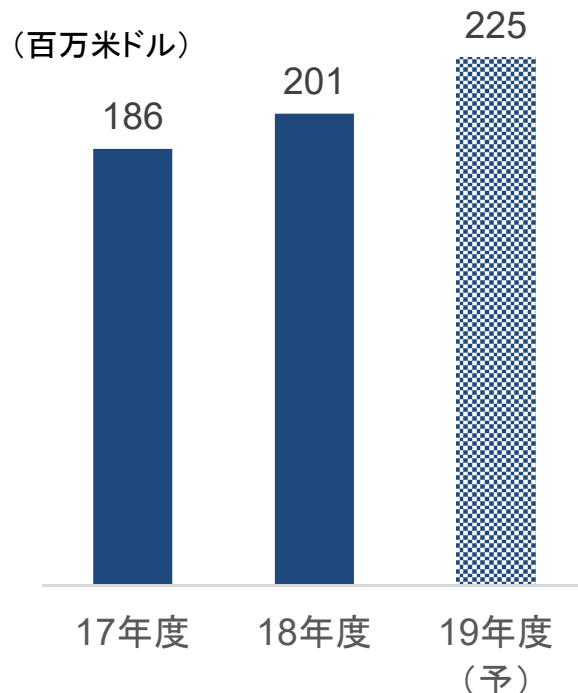
2019年4月発売 (全国)
2019年4月発売 (東日本)
2019年9月発売 (西日本)



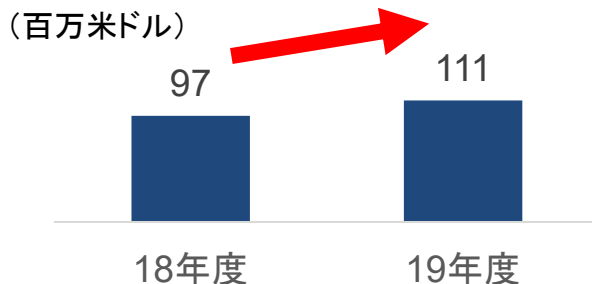
(注)「リフレックス」は18年度よりジェネリックを含む

- 上期の「インフルエンザHAワクチン」は前倒し出荷を実施、通期では計画通りだが、早期出荷を図り返品削減に期待
- 定期接種の小児用ワクチン(4種混合、日本脳炎他)は小児科定期訪問先と訪問件数の増加により継続的にシェアアップを図る
- 10月薬価改定は想定の範囲内
- アレルギー性疾患治療薬「ビラノア」は花粉症シーズンに向け取り組みを強化
- ジェネリックでは、不足している注射用抗菌剤を中心に、最大限の供給を図る

メドライクグループ売上高



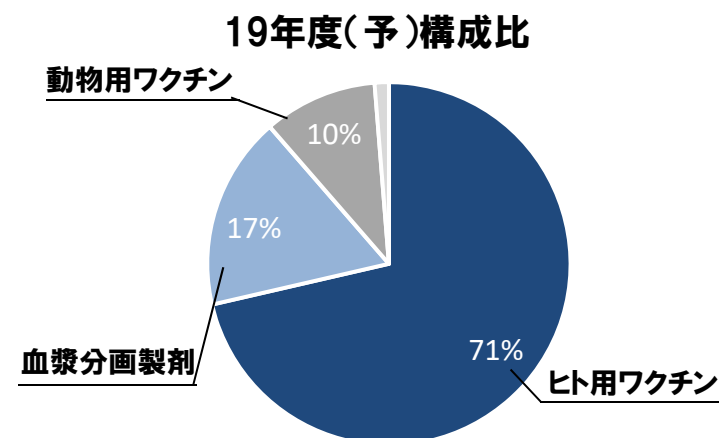
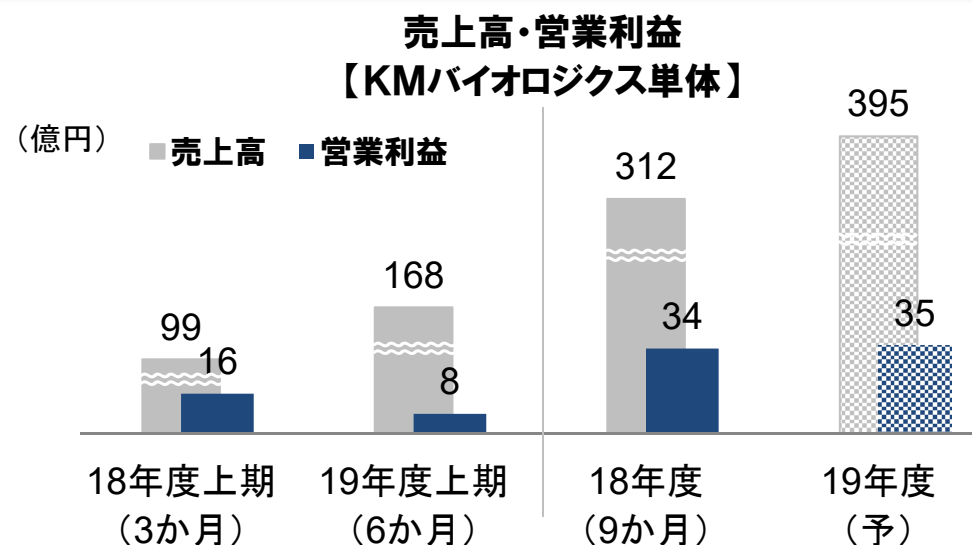
メドライクグループ上期売上高



海外市場

日本市場

- **インド国内工場の生産体制の再構築が進行、増産体制が整う**
- **既存顧客からの受注増に加え、新規顧客獲得も進み着実に成長**
- **Me ファルマへの製品供給は順調に進捗(9月時点:5成分9品目)**
- **Meiji Seika ファルマ本社内に、日本市場向け製剤受託事業を専門に扱う「日本市場開拓グループ」を新設、他社からの受託活動を加速**



ヒト用ワクチン

- Meiji Seika ファルマとの連携強化により主力製品(インフルエンザワクチン、小児用ワクチン)のシェアは着実に拡大
- 生産効率化に取り組みコスト削減を実施

血漿分画製剤

- 日本血液製剤機構との連携強化により 主力製品(生体組織接着剤、人血液凝固因子、アルブミン)の販売を拡大

医薬品

- **パーキンソン病治療剤「エクフィナ錠」(一般名:サフィナミドメシル酸塩)が日本において製造販売承認を取得(2019年9月20日)**
 - ・ 保険収載により11月より販売開始見込み
 - ・ 製造はMeiji Seikaファルマ、販売はエーザイ
- **統合失調症治療薬ME2112(開発コード、一般名:ジプラシドン塩酸塩一水和物)は、開発計画および開発戦略について見直しを実施(2019年9月6日)**

農薬

- **国内で、新規殺虫成分フルピリミン(開発コードME5382)を含有する殺虫剤および殺虫殺菌剤の農薬登録を取得(2019年6月27日)**
 - ・ 殺虫剤「リディア箱粒剤」「エミリアフロアブル」
 - ・ 殺虫殺菌剤「Dr.オリゼリディア箱粒剤」
- **インドで、ライセンス先のアリストライフサイエンス社の親会社UPL Limitedが農薬登録を申請(2019年6月27日)**



- 2019年7月 **「グループ人権会議」の設置**
人権デュー・ディリジェンスの取り組みを強化
- 2019年7月 **環境省「TCFD に沿った気候リスク・機会のシナリオ分析支援事業」に選定**
- 2019年9月 **「統合報告書2019」発行**
特集：持続可能なカカオ生産の実現に向けて
- 2019年10月 **サステナビリティ推進部を新設**
「持続可能な社会の実現」に向け、グループ全体のサステナビリティ戦略を立案・推進

参考資料：財務データ

2019年度 上期連結経営成績



(億円)	19年度 上期実績	前年同期比	主な内容
売上高	6,180	+1.0% +61	— (詳細はP4-6参照)
営業利益	475	+8.5% +37	— (詳細はP4-6参照)
営業外収益	31	+109.1% +16	・受取保険金(+12)
営業外費用	19	+34.1% +4	・持分法による投資損失(+2)
経常利益	487	+11.1% +48	—
特別利益	11	△91.3% △121	・負ののれん発生益(△65) ・固定資産売却益(△58)
特別損失	26	△34.4% △14	・災害による損失(△10)、減損損失(△2)
税金等調整前純利益	472	△11.1% △58	—
法人税等	146	+1.1% +1	—
非支配株主に 帰属する純利益	7	+128.3% +4	—
親会社株主に帰属する 四半期純利益	318	△16.8% △64	—

2019年度 上期連結営業利益 増減分析



(億円)	連結			食品	医薬品	他
	18年度上期	438			390	51
売上増減	+35			+38	△3	—
原価の変動	△4 ^(*1)			△14	+10	—
経費等の増減	△10 ^(*2)			△18	+8	—
その他(子会社損益含む)	+16			△1	+16	+1
19年度上期	475			395	82	△2

*1: 主な内訳 … 【食品】国内乳価△10、包材△3

【医薬品】原価低減及び生産体制の見直しに伴う在庫評価替による差異

*2: 主な内訳 … 【食品】販売費・宣伝費増△9、物流費増△4、その他△5

【医薬品】普及費減+1、その他+7

2019年度 上期連結財政状態



(億円)	19年9月末 実績	前期末比	主な内容
流動資産	4,101	△2.7% △113	・受取手形及び売掛金(△111) ・現金及び預金(△23) ・商品及び製品(+74)
固定資産	5,911	+1.4% +84	・建設仮勘定(+63) ・建物及び構築物(+47) ・投資有価証券(△24): 時価評価減 ・繰延税金資産(△10)
資産合計	10,012	△0.3% △29	—
流動負債	2,743	△5.9% △171	・支払手形及び買掛金(△189) ・未払法人税等(△58) ・未払費用(△26) ・短期借入金(+102)
固定負債	1,473	△3.1% △47	・長期借入金(△44)
負債合計	4,216	△4.9% △218	—
株主資本	5,283	+4.1% +207	・利益剰余金の増加(+204)
その他の包括利益 累計額	177	△10.1% △19	・為替換算調整勘定(△17)
非支配株主持分	335	+0.6% +1	—
純資産合計	5,796	+3.4% +189	—
有利子負債	1,281	+10.1% +117	・短期借入金(+102) ・コマーシャルペーパー(+60) ・長期借入金(△44)
自己資本比率	54.5%	+2.0pt	—

2019年度 上期連結キャッシュフロー、株主還元



(億円)	19年度 上期実績	前年同期比	主な内容
営業キャッシュフロー	340	△43	<ul style="list-style-type: none"> ・仕入債務の減少(△141) ・税金等調整前利益の減少(△58) ・たな卸資産の増加(△43) ・のれん償却額(△8) ・売上債権の減少(+126) ・負ののれん発生益(+65) ・減価償却費(+17)
投資キャッシュフロー	△363	+239	<ul style="list-style-type: none"> ・連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出(+338) ・有形及び無形固定資産の売却による収入(△76) ・有形固定資産の取得による支出(△41)
フリーキャッシュフロー	△23	+195	—
1株あたり配当金	70.0円	+5.0円	

2019年度 連結計画



(億円)

	上期実績		下期計画 (11/8修正)		通期計画		
		前年同期比		前年同期比		前年同期比	
連結	売上高	6,180	+1.0% +61	6,909	+7.6% +485	13,090	+4.4% +546
	営業利益	475	+8.5% +37	604	+10.8% +58	1,080	+9.8% +96
	経常利益	487	+11.1% +48	602	+7.9% +44	1,090	+9.3% +92
	親会社株主に帰属する 四半期純利益	318	△16.8% △64	356	+51.3% +120	675	+9.1% +56
食品	売上高	5,232	△0.3% △16	5,667	+6.6% +349	10,900	+3.2% +333
	営業利益	395	+1.4% +5	504	+10.3% +46	900	+6.2% +52
医薬品	売上高	953	+8.9% +77	1,251	+12.6% +140	2,205	+11.0% +218
	営業利益	82	+60.8% +31	102	+12.5% +11	185	+29.9% +42

(億円)		上期実績		下期計画 (11/8修正)		通期計画	
			前年同期比		前年同期比		前年同期比
発酵 デリー	売上高	1,624	△1.9% △30	1,693	+2.9% +47	3,318	+0.5% +16
	営業利益	207	△7.4% △16	280	+10.3% +26	488	+2.1% +10
加工食品	売上高	914	+0.1% +0	865	+1.7% +14	1,780	+0.9% +16
	営業利益	48	+11.2% +4	43	+13.2% +5	92	+12.1% +10
菓子	売上高	523	+3.9% +19	788	+9.7% +69	1,312	+7.3% +90
	営業利益	68	+9.4% +5	150	+6.3% +8	219	+7.3% +15
栄養	売上高	469	+5.2% +23	414	+2.2% +8	883	+3.8% +32
	営業利益	88	+21.6% +15	45	△21.8% △12	133	+2.4% +3

(億円)		上期実績		下期計画 (11/8修正)		通期計画	
			前年同期比		前年同期比		前年同期比
海外	売上高	232	+6.9% +15	301	+18.5% +47	534	+13.2% +62
	営業利益	8	+62.1% +3	4	△38.3% △2	12	+2.8% +0
国内 その他 子会社	売上高	1,467	△2.9% △44	1,603	+11.3% +162	3,070	+4.0% +117
	営業利益	20	△11.7% △2	22	+53.2% +7	43	+13.2% +5
全社 共通費	売上高	0	—	0	—	—	—
	営業利益	-46	— △4	△41	— +14	△88	— +9

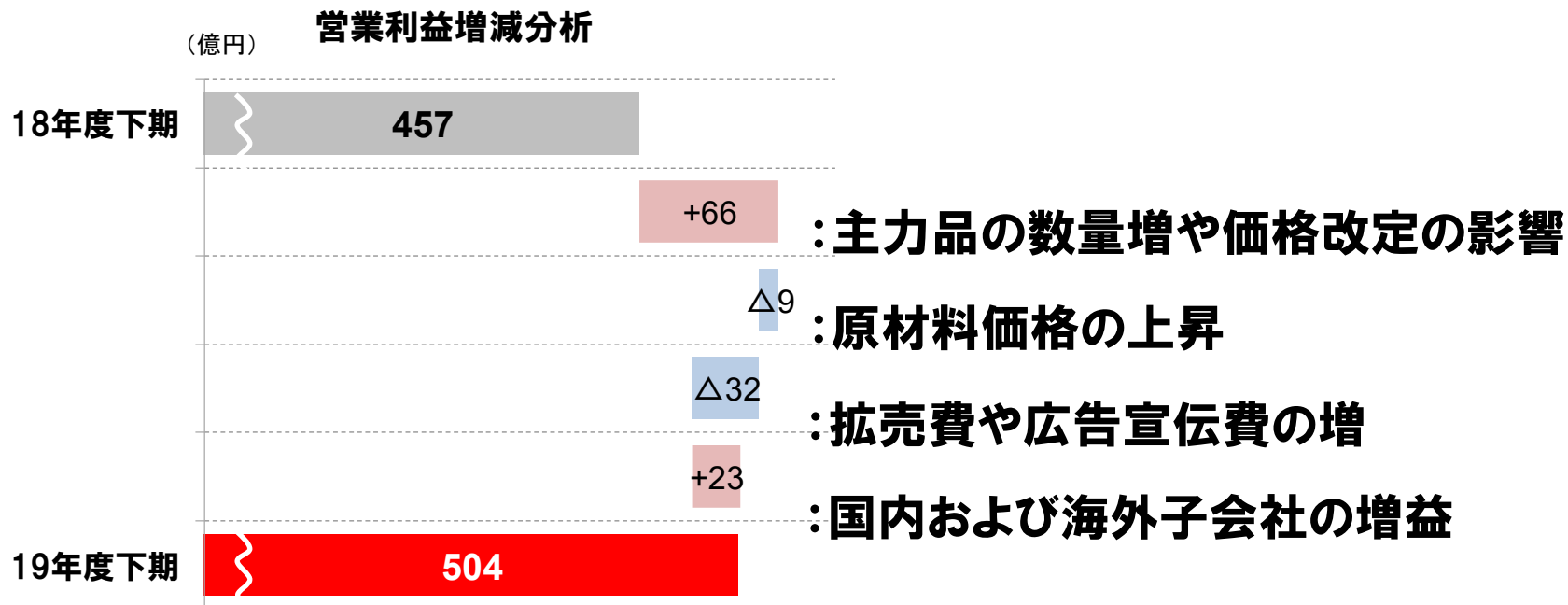
(億円)	食品全体	発酵 デイリー	加工食品	菓子	栄養	海外	その他 国内子会社	全社 共通費	
18年度上期 営業利益	390	224	43	62	72	5	23	△41	
前年 増減額	売上増減	+38	+4	+14	+8	+12	+1	—	0
	原価の変動	△14	△10	△2	△0	△1	+0	—	0
	経費等の増減	△18	△8	△6	△1	+3	△2	—	△5
	その他 (子会社損益など)	△1	△2	+0	△1	+2	+3	△3	△0
19年度上期 営業利益	395	207	48	68	88	8	20	△46	

(億円)	18年度 上期実績	19年度 上期計画	19年度 上期実績	前年同期 増減率	上期計画 増減率
ヨーグルト	450	474	433	△3.7%	△8.7%
明治ブルガリアヨーグルト	419	415	396	△5.3%	△4.4%
プロバイオティクスヨーグルト	521	521	495	△5.0%	△4.9%
牛乳類	552	544	585	+6.0%	+7.5%
明治おいしい牛乳	297	297	299	+0.6%	+0.5%
チーズ	180	179	181	+0.7%	+1.1%
明治北海道十勝チーズ	66	71	69	+3.3%	△3.9%
アイスクリーム	283	283	275	△3.1%	△3.0%
チョコレート	366	384	396	+8.1%	+3.3%
栄養食品	282	284	295	+4.7%	+4.1%
スポーツ栄養	113	117	115	+1.5%	△1.7%

- ヨーグルト、プロバイオは減収続く、天候不順によりアイスクリームも前年割れ
- 牛乳類のザバスミルク、チョコレート、乳幼児ミルクや流動食が好調に推移

(億円)		上期実績		下期計画 (11/8修正)		通期	
			前年同期比		前年同期比		前年同期比
国内	売上高	657	+12.7% +74	916	+26.5% +191	1,573	+20.4% +267
	営業利益	53	+28.8% +12	59	+3.1% +1	113	+13.9% +13
海外	売上高	222	+7.6% +15	223	+9.3% +18	445	+8.7% +35
	営業利益	20	+170.4% +12	1	△89.7% △12	21	+2.3% +0
KM バイオロジクス	売上高	168	+69.2% +69	226	+6.3% +13	395	+26.4% +82
	営業利益	8	△50.8% △8	26	+47.5% +8	35	+1.2% +0
修正・消去	売上高	△94	— △81	△114	— △85	△209	— △167
	営業利益	△0	— +14	15	— +13	15	— +27

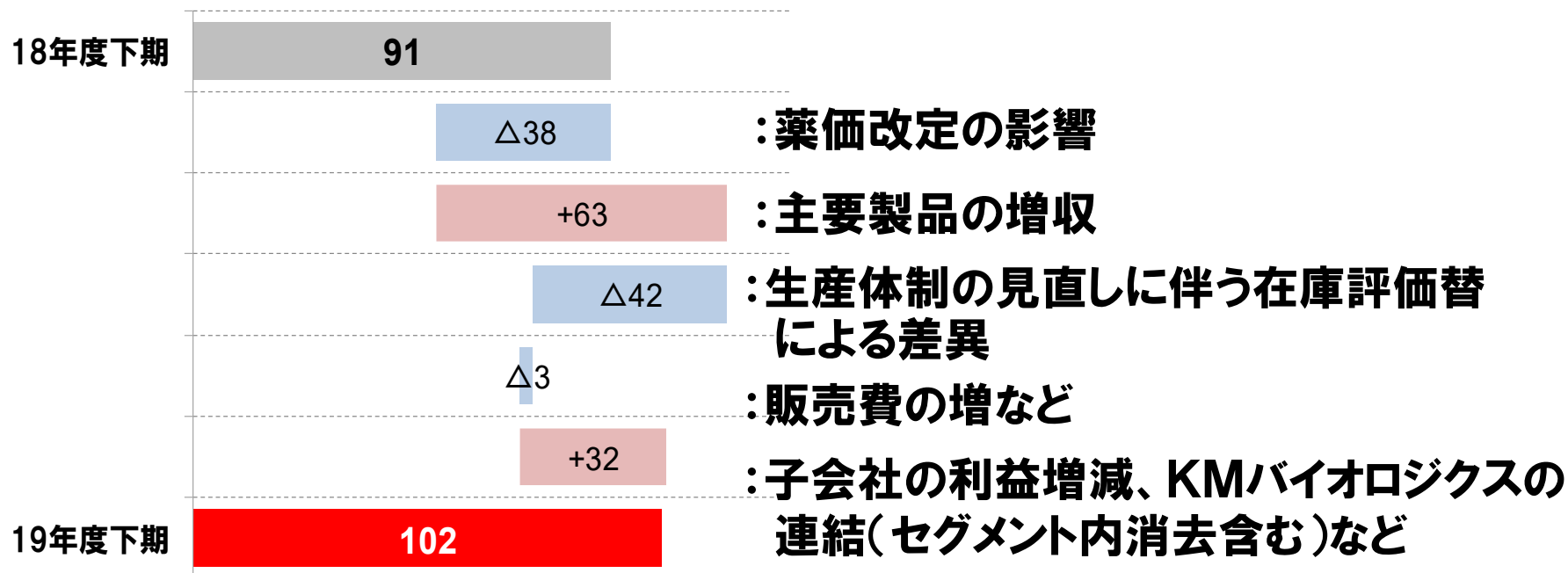
(億円)	18年度 下期実績	19年度 下期計画 (11/8修正)	前年同期比
売上高	5,318	5,667	+6.6% +349
営業利益	457	504	+10.3% +46



(億円)	18年度 下期実績	19年度 下期計画 (11/8修正)	前年同期比
売上高	1,110	1,251	+12.6% +140
営業利益	91	102	+12.5% +11

営業利益増減分析

(億円)



2019年度 連結営業利益 増減分析



(億円)	連結			食品	医薬品	他
	18年度実績	983			847	142
売上増減	+164			+104	+60	—
薬価改定の影響	△38			—	△38	—
原価の変動	△55 ^(*1)			△23	△32	—
経費等の増減	△45 ^(*2)			△50	+5	—
その他(子会社損益含む)	+71			+22	+48	+1
19年度計画	1,080			900	185	△5

*1: 主な内訳…【食品】原材料調達コスト△42、商品政策・効率化+19

【医薬品】原価低減+7、在庫評価替えによる差異△39

*2: 主な内訳…【食品】拡売費・宣伝費増△53、物流費減+2、その他+1

【医薬品】普及費増△10、その他+15

2019年度通期 キャッシュフロー、株主還元

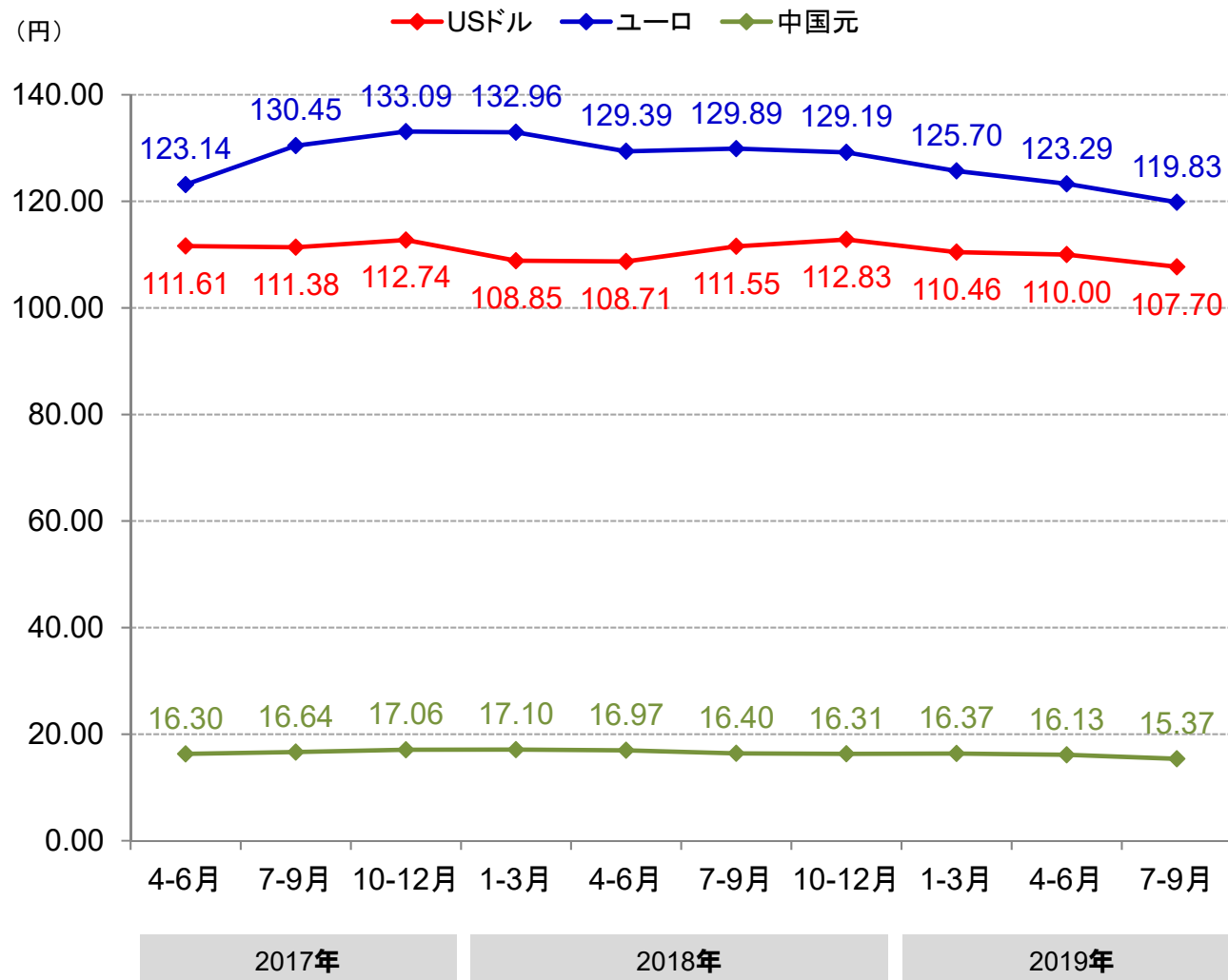


(億円)	19年度 計画	前年同期比		主な内容
営業キャッシュフロー	1,079	△42		・税金の支払増
投資キャッシュフロー	△995	+7		<ul style="list-style-type: none"> ・設備投資額の増加 【設備投資額】 食品 861億円(前年同期比+247) 医薬品 129億円(前年同期比+33) ・前年KMバイオロジクス株式取得支出の反動
フリーキャッシュフロー	84	△34		
1株当たり配当金	140円	—	(2Q)70円	(期末)70円
配当性向	30.1%	△2.7pt	—	
ROE	12.3%	+0.1pt	—	

主要通貨と当社平均レート



主要通貨と当社平均レートの推移



19年度計画の為替前提

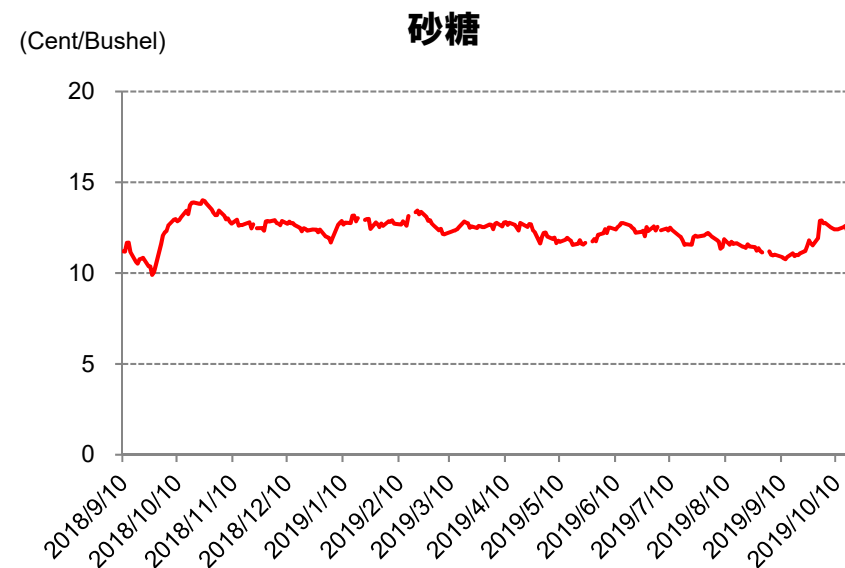
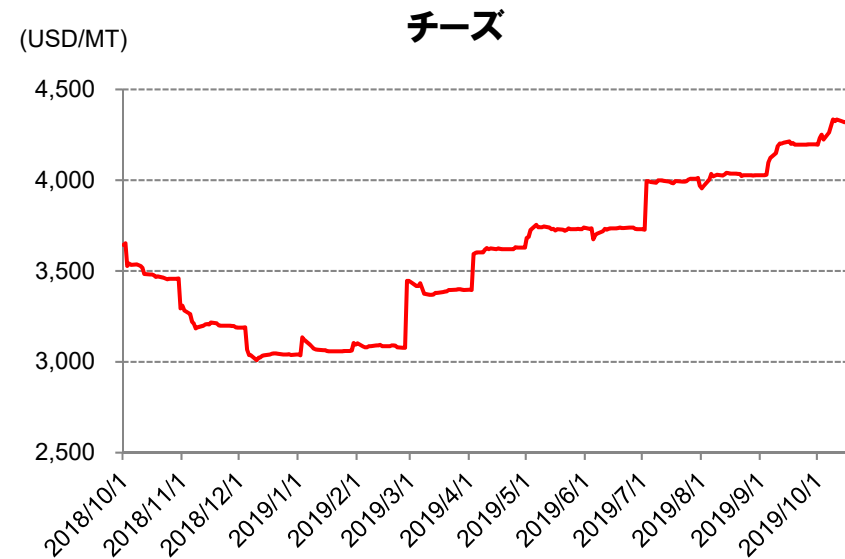
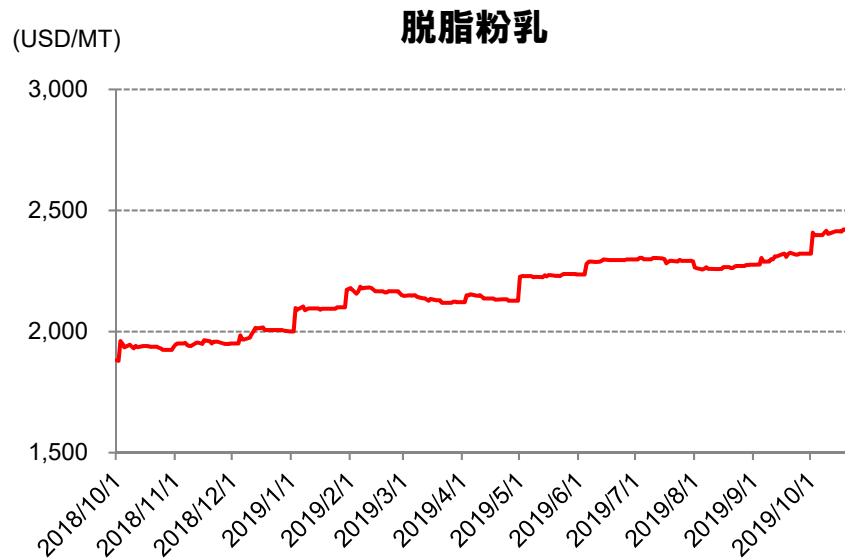
USD	110円
ユーロ	130円
中国元	17円

2020中計の為替前提

USD	食品 115円 薬品 110円
ユーロ	食品 125円 薬品 120円
中国元	食品・薬品 16円

参考資料：トピックス

主要輸入原料相場の動向



開発パイプライン



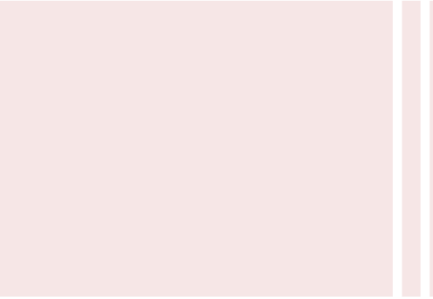
現在のパイプライン(◆自社創製)		19年度	20年度	21年度
感染症	ME1111 【爪真菌症治療薬】 ◆	Phase I		
	ME1100 アルベカシン 【院内感染肺炎/人工呼吸器関連肺炎治療薬】 ◆	PIb (海外)		
	OP0595 【β-ラクタマーゼ阻害薬】 ◆	PI併用		
中枢神経系	ME2125 サフィナミド 【パーキンソン病治療薬】 ※	申請 → 承認		
	ME2112 ジプラシドン 【統合失調症治療薬】	Phase III		
その他	SP-02L ダリナパルシン 【再発・難治性末梢性T細胞リンパ腫治療薬】	Phase I	申請	
	DMB-3111 【トラスツズマブ(ハーセプチン バイオ後続品)】 ※	導出 (PI終了)		
ヒト用ワクチン	KD-370 【百日せき菌、ジフテリア菌、破傷風菌、ポリオウイルス、ヘモフィルスインフルエンザ菌b型による感染症の予防】	Phase III		申請
	KD-382 【デング熱の予防】	Phase I (海外)		
	KD-404 【インフルエンザの予防】	Phase I/II		
血漿分画製剤	KD6-71 【慢性炎症性脱髄性多発根神経炎(多巣性運動ニューロパチーを含む)の筋力低下の改善用】	申請 → 承認		
	KD5-71 【視神経炎(ステロイド剤が効果不十分な場合に限る)】(希少疾病用医薬品)	申請 → 承認		
	KD-371 【顕微鏡的多発血管炎における神経障害の改善(ステロイド剤が効果不十分な場合に限る)】(希少疾病用医薬品)	Phase III		
	KD2-305 【血液凝固第VIII因子又は第IX因子に対するインヒビターを保有する患者の出血傾向の抑制】	Phase I/III		申請

(注) ※印は導出した品目。導出先や対象地域などの詳細については、当社ホームページをご参照ください

開発パイプライン



現在のパイプライン(◆自社創製)		19年度	20年度	21年度
農薬	ME5382【殺虫剤/Flupyrimin】◆	申請 (海外) → 登録		
	ME5343【殺虫剤/Afidopyropene】BASF社と共同開発◆ <small>(MeijiSeikaファルマと北里研究所との共同研究で発見)</small>	登録 (海外)		
	ANM-138【殺虫剤/Flometoquin】日本化薬と共同開発◆	登録		
	ME5223【殺菌剤/Fenpicoxamid】Corteva Agriscience社と共同開発◆	登録 (海外)		
動物薬	ME4129適応拡大【抗菌性注射剤】	申請 → 承認		
	ME4136【抗菌性注射剤】	申請 → 承認		
	ME4137【抗菌性注射剤】	申請	承認	
	ME4406【飼料添加物】		申請	
	ME4204適応拡大【経口駆虫剤】		申請	承認
	ME4624【ワクチン】	申請 → 承認		
	KD-390【鶏用ワクチン】	申請 → 承認		
	KD-377【豚用ワクチン】	申請 → 承認		
KD-386【豚用ワクチン】	申請 → 承認			



meiji

